

個別指定京町家所有者への意向調査結果（概要）

1 調査概要

(1) 調査の目的

個別指定京町家所有者に調査票に回答いただくことによって京町家条例や支援制度の認知度を向上させるとともに、所有者のお悩みごとや将来の意向等を把握し、今後の支援にいかすことを目的として実施

(2) 対象

個別指定京町家所有者 1,160 名

※ 複数軒の所有者や複数人所有の京町家があるため、個別指定京町家の指定数（1,243 軒（令和 4 年 9 月 30 日時点））と一致しない。

(3) 方法

調査票を所有者の住所に簡易書留で郵送し、返送を求める方法による。

(4) 実施時期

令和 4 年 10 月 28 日（金）に一斉発送

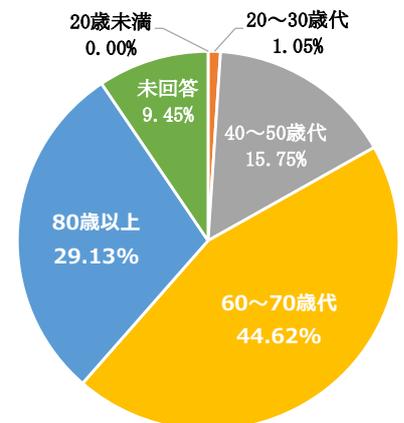
(5) 回答数

381 名（回答率 32.8%）

2 調査結果

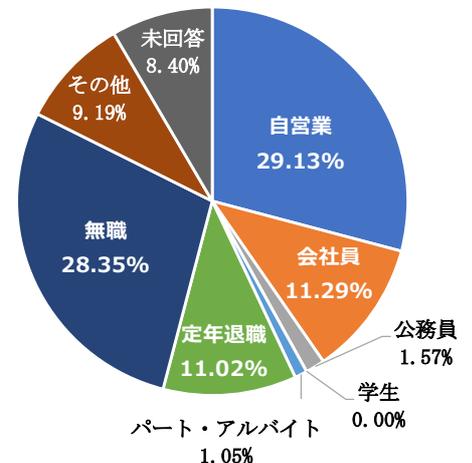
(1) 年齢

「60～70 歳代」が 45%と最も多く、次いで「80 歳以上」が 29%であり、60 歳以上が 74%を占めている。



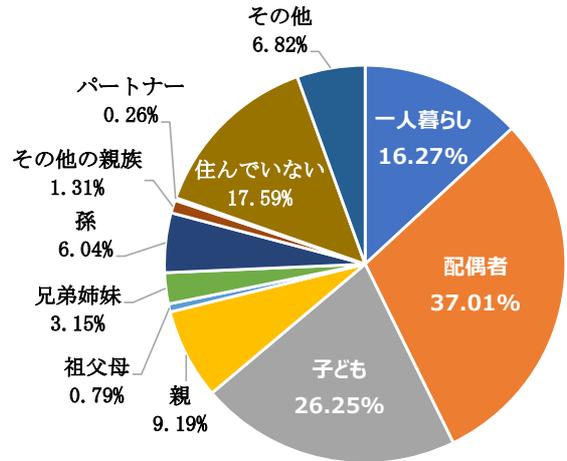
(2) 職業

「自営業」と「無職」が約 30%と最も多く、次いで「会社員」と「定年退職」が約 11%を占めている。



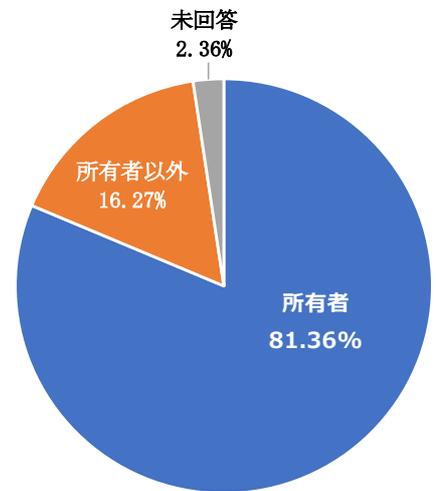
(3) 本京町家にお住まいの方の構成

所有者と一緒に暮らしている方として「配偶者」が37%と最も多く、次いで「子ども」が26%、「一人暮らし」が16%を占めている。



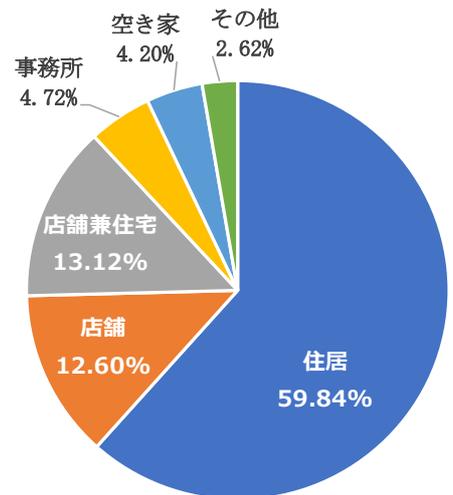
(4) 使用者

所有者に使用されている京町家が81%を占めている。



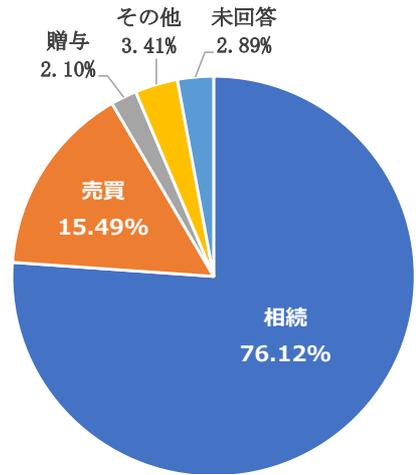
(5) 用途【複数回答有】

住居が60%と最も多く、次いで店舗及び店舗兼住宅が約13%を占めている。



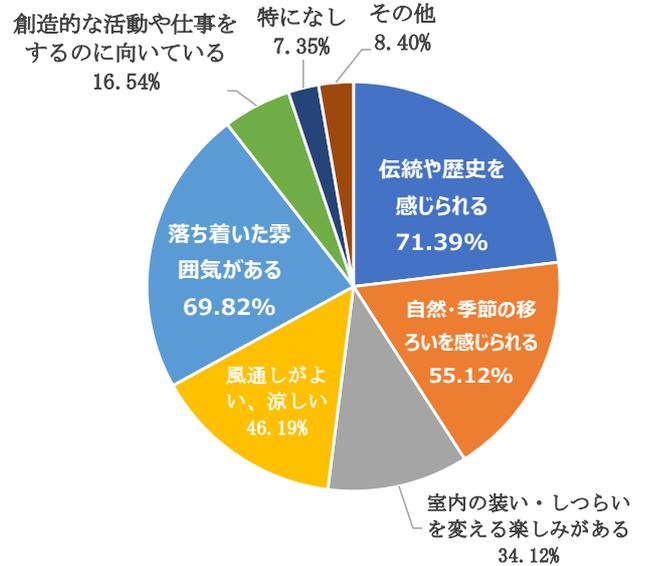
(6) 所有者となったきっかけ

「相続」が76%と最も多く、次いで「売買」が15%を占めている。



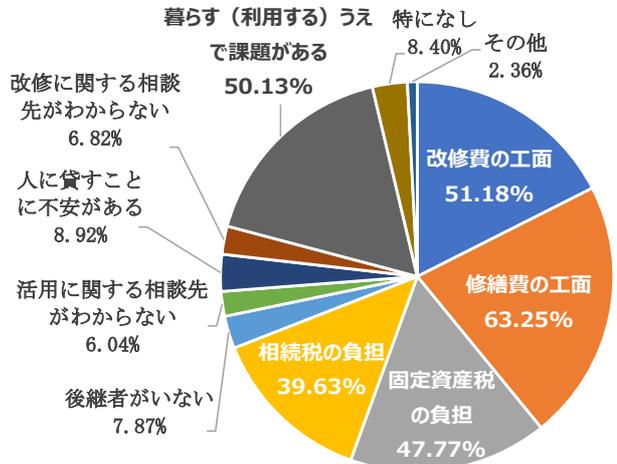
(7) 京町家で暮らす（利用する）うえで、魅力と感ずる点【複数回答可】

伝統や歴史が感じられる、落ち着いた雰囲気があるなど、大半の方が京町家に魅力を感じている。



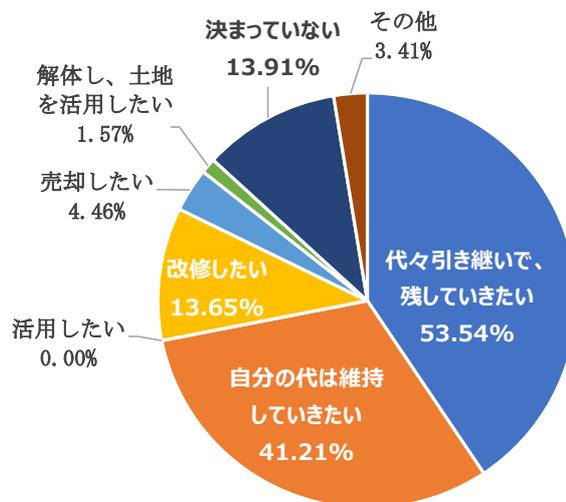
(8) 京町家を維持していくために、実際に苦労した（している）点【複数回答可】

改修費や修繕費の工面に苦労している方が最も多く、次いで「暮らす（利用する）うえで課題がある」、固定資産税や相続税の税金の負担との回答が多い。



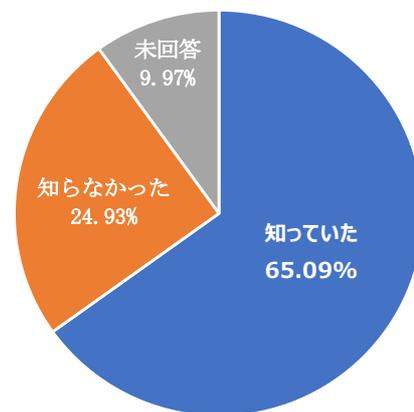
(9) 所有の京町家の将来【複数回答可】

「代々引き継いで、残していきたい」が54%と最も多く、次いで「自分の代は維持していきたい」が41%、「改修したい」と「決まっていない」が14%を占めている。



(10) 届出制度の認知度

京町家条例に基づく届出制度を「知っていた」が65%を占めている。



(11) 京町家の保全・継承に関する主な意見

ア 補助制度に関すること

- ・ 個人の家に対して支援制度があるのはありがたい。
- ・ 建物内部への補助が外部の補助に比べて少ないと感じる。
- ・ 補助対象、補助率や上限額など補助金を充実してほしい。
- ・ 手続きを簡素化してほしい。
- ・ 様々な補助制度があり、どの制度が利用できるかわかりにくいいため、どこかの部署が一括して受け付けてほしい。

イ 税金に関すること

- ・ 固定資産税や相続税の負担が大きく減税してほしい。

ウ 生活文化に関すること

- ・ 京町家の継承は、京都の生活文化全般の継承がその基礎に必要。京都だけがかつて当たり前だった日本の文化が残ってほしい。
- ・ 有形の文化財である京町家はもとより、そこで暮らす人達の四季折々の生活文化そのものを文化財として保護してもらいたい。

エ 指定制度に関すること

- ・ 京町家を守ろうとする京都市の取組は理解するが、所有者の同意なく指定するのは疑問を感じる。

- ・ 景観重要建造物や個別指定京町家など、支援制度が豊富にあるのは良いことだが、二重の指定で制度もわかりにくくなっている。トータルで見た制度や支援策のわかりやすさを目指してほしい。

オ その他

- ・ 京町家の指定制度が歯止めになってないと報道されていたが、少なくとも私は指定されたことをきっかけに残す方向に転換し、補修・塗装などの維持にも努力するようになった。
- ・ 近所の方から「大切に守ってください」という応援の声をいただいております、維持には努力が必要だが、京都市をはじめ、理解者に支えられて頑張れる気がしている。
- ・ せっかくの京町家が壊されるのではなく、活用されてほしい。京都市の財政は厳しいが、将来のためにも頑張してほしい。
- ・ 全ての町家跡がマンションになれば、京都でなくなってしまう。京町家を保全するために有効な制度のアナウンスを行ってほしい。
- ・ 京町家を個人の力で守るには限界があり、所有者だけでなく、地域にこうした京町家があることを広く知ってもらう必要があると思う。
- ・ 京都の町並みの破壊は危機的状況で心が痛む。京町家の価値、優れた性能等を広く人々に知ってもらうべきである。
- ・ 修繕、維持するのに費用が掛かりすぎて、年金生活では大切に住み続けるのに限界があり、すばらしい町家だと思えばもっと補助すべき。
- ・ 市内の町家が壊されても、市民の思いや願いが少なく、何となく落ち着いた市内の環境に疲れた。
- ・ 維持したい所有者にとってもっと簡単に、家の保全や改修工事ができるような道筋を作ってもらいたい。お金が掛かりすぎて手放す人が多く、助成制度やその他の制度も理解が難しい。

